



# 京都大学大学院 地球環境学舎同窓会会報



第 15 号

(2018 年 10 月発行)

## 目次

ご挨拶 .....	1
1. コラム<会員からのお便り> .....	2
コラム1 田中祐太郎さん（2011年度修士課程入学、第10期生） .....	2
コラム2 村越友祐さん（2012年度修士課程入学、第11期生） .....	4
2. 平成29（2017）年度開催 第14回総会について .....	7
3. 同窓会からのお知らせ .....	10
1) 連絡先について .....	10
2) 会費の支払い方法について .....	10
3) メーリングリスト利用案内 .....	11
4) 卒業記念品 .....	12
5) 学舎同窓会ホームページと Facebook グループページのご案内 .....	12
6) 地球環境学堂・学舎・三才学林の Facebook ページ .....	13
7) 2018年度 総会・懇親会のご案内 .....	13
8) 同窓会役員（2018年度） .....	13

---

## ご挨拶

---

この一年は記録的猛暑、豪雨災害、地震と多くの出来事がありました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りしております。

この度、2018年度の地球環境学舎同窓会会報発行にあたりまして、お二人の同窓生にコラムをご寄稿いただきました。学舎での学びや、現在のお仕事へのつながりなど、大変読み応えのある内容となっています。その他同窓会の活動や、総会の議事録などについてもまとめておりますので、ぜひご一読ください。

同窓生の皆様のお力添えがあつての同窓会です。ますますの発展を目指し、これからも活動してまいりますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

地球環境学舎同窓会役員一同

---

## 1. コラム<会員からのお便り>

---

---

### コラム1 田中祐太郎さん（2011年度修士課程入学、第10期生）

---

#### 点との出会いを大切に

##### 点と点の先にある今

中学生の頃に見た、油まみれの海鳥の写真。「何て理不尽なのだろう」そう思ったのが、私が「環境問題」を考えるきっかけとなった最初の思い出でした。その後、大学・大学院では特に熱帯林にかかる研究を行いました。学舎では陸域生態系管理論分野にて、舟川先生のご指導のもと、カメルーン東部州のアンドン村という、人口1,000名弱、約120世帯が住む村にホームステイをさせて頂きながら、現地農耕民族・狩猟民族の生業戦略、熱帯林における非木材林産物の利用方法などについて研究を行いました。研究の中で出会った村人たちの経済的貧困の現実、貧困の中に見る豊かな生活、開発と貧困、開発と環境、そういったワードが私の中で次なるテーマとなり、途上国の開発援助を担うJICA（国際協力機構）に入構しました。JICAに入構して5年。最初2年は審査部にて特にインフラ事業の環境アセスメントを担当し、そのうち3ヶ月はパキスタン事務所にて現地研修。次の2年は地球環境部にて、熱帯雨林、保護区など自然資源の保全・持続的利用に関する案件形成に従事。カメルーン担当となり、REDD+の準国レベル国家計画策定に資する技術協力案件形成に尽力しました。ゼロから作り上げた当該案件、案件開始のための合意文書を締結し、署名者であるカメルーン環境大臣と握手した時、アンドン村での思い出などが蘇り、感慨深い思いが込み上げてきたことを覚えています。現在はブラジル事務所にて赴任し、新規案件の発掘や事業監理、事務所マネジメント業務など手広く対応しています。

こうやって振り返ってみると、人生を一本の線で引いてみたとき、自分の進路に影響をあたえる点が幾つかあり、それらを繋ぎ合わせた結果として今の自分がここにいることを実感します。海鳥の写真、カメルーン・アンドン村の人々との暮らし、国際協力の現場、ブラジルでの生活。それぞれの点と出会った時には、数年後の自分がどこにいるかなんて想像もできませんが、少なくとも自分の心が突き動かされるタイミングがあり、その時にどのような準備ができていのかでその後の人生は大きく変わるのだな、と感じます。次の点に出会うまで、自身の好奇心に忠実に、次のステップへの準備を進めたいと思います。

##### 学舎の経験と今の私

学舎での経験が今につながっている点がいくつかあります。学舎、陸域生態系管理論分野では、研究テーマの設定から調査手法の検討、フィールドワーク実施から分析に至るまで、まずは自分でゼロから考え、行動することを許していただきました。この一連のプロセスはどの世界に行っても重要で、生きる力だと思います。また、学舎に集う学生は国籍、学業分野の面で多様性に富んでいます。個人的には、多様性を認め合う世界というのが理想だと考えていますが、価値観のバックグラウンドが異なる学生同士で繰り広げられる種々の議論を通して、国際的なバランス感覚というのは少なからず養われ、それが今の仕事でも活きていると思います。最後に、今の私に大きくつながっている経験がフィールドワークです。JICA という仕事を選択するきっかけにもなりましたが、それ以上に、カメルーン・アンドン村での調査を通してふれあった村人たちの生活、彼らの考え方、コミュニティの構造と機能など、フィールドワークを通して出会った全てが私の価値観醸成に繋がり、行動指針の基礎となっています。もしも、学舎の学生、もしくは学舎を志す方がいらっしゃれば、ぜひ、京都大学、地球環境学舎のネットワークを駆使して現地フィールドワークを行うことをお勧めしたいと思います。そういった経験が、自分の価値観と世界の多様性を認めるきっかけになると信じています。



### 京都からインドへ、そしてさらに世界へと

第 11 期生（国際環境防災マネジメント論分野）の村越友祐です。

ある時を境に、強く哲学に興味を持ち、現在も魂の世話をしながら真の哲学者への道を歩んでいます。哲学書を読んだり、哲学史を学ぶ事は、もちろん大切ですが、やはり日常生活の中で哲学する事に重きが置かれる生き方ができてこそ真の哲学者だと考えます。

食の安全や環境問題に強い関心を持つ両親に育てられた私が、学部、大学院と一貫して環境学を学ぶ事は、とても自然な事であり、当然の成り行きであったと思います。6年間の学びを通して、世界各国が、環境問題解決の為に技術革新に期待をしたり、経済的手法、法的手法を駆使して挑んだ結果が、現在の状況なのだと知り、愕然としました。そして、私は、一つの考えを持つに至りました。それは、結局のところ、一人一人の人間の生き方や考え方が変わらなければ、根本的な解決には至れないのではないかというものです。

そこで、人間の根源的な部分にアプローチする為に、哲学という分野へと舵を切りました。西洋の哲学、特に真善美を基礎とするギリシャ哲学に興味がありましたが、宗教の問題も深く知る必要があると考え、最終的には、京大時代にも研究で訪れたインドへ留学し、インド哲学を仏教とヒンズー教を含めて学びました。インドは、膨大な人口だけでなく、多種多様な宗教、身分の問題を持つ国です。また、仏教が生まれた地でもあります。

私の選んだ大学院は、インド最貧と言われるビハール州にありました。生活や教育の水準は、他の州と比べ格段に低く、本当にギリギリの生活をする不可触民や低カーストの人々が密集する地域です。もちろん、政治は腐敗しています。ここで過ごした2年は、まさに修行のような日々でした。日本を含むアジアとオセアニアの16ヶ国が出資しての大規模な大学院創設プロジェクトでしたが、現地に行ってみるとホームページにあるようなきれいなキャンパスはどこにもなく、仮のキャンパスとされとても貧相な建物があるのみ。本当に何も無い田舎で、日用品の入手も困難なほどでした。おまけに、全寮制の大学院であるにも関わらず、衛生管理がずさんで、集団食中毒が発生する事もありました。しかしこの一件で、学生達の連帯感が強まったとも言えるでしょう。

地域の人々の生活はと言えば、貧困のみならず、宗教と密接に関連した社会身分制度が弱者からあらゆるものを奪い、負の連鎖が続いていました。現地の公立学校は、不可触民や低カーストの子供が通うには危険すぎる場所となっていました。学内での同級生や教員による殺人事件が後を絶たない為です。こうして、彼らは、教育の機会まで奪われるので

す。このような状況を目の当たりにし、私に何かできる事はないかと考える日々が続きました。

「そうか。あのプロジェクトをスタートするなら今なのではないか。」次の日にはもう動き出していました。貧しい子供達に無償で質の高い教育を提供し、貧困からの脱却と彼らの夢の実現をサポートしたいという思いが以前からあったからです。笑顔の先にある世界という任意団体を立ち上げ、教材からカリキュラム作製、教員育成まで、学校運営の全てを独自に行う事としました。インドに限らず、発展途上国と呼ばれるアジア・アフリカの国々の多くの学校を視察し、教育制度や内容自体に問題があると強く感じた為です。

こうして私は、インドで大学院生として学びながら、小さな2つの小学校を仏教の聖地であるブッダガヤに設立しました。今では、3人の教員の下で60名の子供達が学んでいます。彼らはもちろん、不可触民か低カーストの家庭の子供達です。本当に心優しく、いつも最高の笑顔を見せてくれます。これまで虐げられてきて、人の痛みが分かる彼らが、目標に向かって学校で学び、いつかその国のリーダーになるとき、国は大きく変わるのではないかと。そんな期待を胸に、今日も学校運営を行っています。村々に何度も足を運び、住民の方々との関係をしっかりと構築した上での学校を中心としたまちづくりが進行中です。

フィールドワークの重要性、現地のニーズに寄り添う現場主義、学校を中心としたまちづくり、全て京大で学んだ事ですが、確実にプロジェクトに活かされています。我が校は、無償の学校である為、運営資金の確保が不可欠です。これまでは、個人的に支援して下さる方々からの寄付やクラウドファンディングで運営資金を募るなどしてなんとか確保できていました。しかし、これからが正念場。受け入れ児童数の増加に対応する為、持続可能な組織の基盤を築くべく、法人様からの支援も含め、最善の方法を模索する毎日です。このような生き方は、京大で実学できたからこそ選べた道だと思います。インドでスタートしたこのプロジェクトが、今後、他のアジア・アフリカ地域へと発展し、多くの次世代を担う人材を育成できたらと考えています。知の技法を学べる真の教育を目指して。



スジャータ・スクールとパンカジ先生



デウマリ・スクールの子供達と私

.....

本コラムは、会員間の交流の一環として会員の方々のご好意によりご寄稿頂いています。このコラムを通じて、学舎の先輩、後輩、同級生の活動を知る一助となれば幸いです。コラム執筆にご協力いただきました田中祐太郎さん、村越友祐さんに、心よりお礼申し上げます。

コラム寄稿者紹介（敬称略）

田中 祐太郎（たなか・ゆうたろう）：

環境マネジメント専攻修士課程 2011年4月入学、第10期生

村越 友祐（むらこし・ゆうすけ）：

環境マネジメント専攻修士課程 2012年4月入学、第11期生



---

## 2. 平成 29 (2017) 年度開催 第 14 回総会について

---

「京都大学大学院地球環境学舎同窓会 第十四回総会」を以下の通り開催しました。前回の総会は、同窓会として初の試みである東京と京都の二拠点同時開催となりました。活発な議論がなされ、会員からの承認を要する項目に関しては、事前および当日の投票により承認を頂きました。ありがとうございました。

**【日時】** 2017年10月21日 (土) 16:00 ~ 18:00

**【場所】** 京都：京都大学 吉田キャンパス総合研究 3 号館 1 階101号室

東京：京都大学 東京オフィス (東京駅丸の内北口)

**【議題】：**

< I. 役員会・事務局について >

1. 役員候補の紹介・承認

< II. 活動報告と今後の活動継続の承認 >

2. 2017年度名簿・会報作成の報告

3. 就職ガイダンスの報告

4. WEBサイト運営の報告

5. 卒業記念品に関する報告

< III. 事業計画の承認 >

6. 年間事業計画

< IV. 会計に関する報告と承認 >

7. 2017年度(2016年9月~2017年8月)決算報告と承認

8. 2018年度(2017年9月~2018年8月)予算案の報告と承認

< V. その他 >

意見交換

**【議事録 (抜粋)】：**

I. 役員会・事務局について

→2018 年度体制について、本会報末尾（13～14 頁）に記載

## II. 活動報告と今後の活動継続の承認

### 1. 2017 年度名簿・会報作成の報告

名簿について：

更新が必要。役員が各代の修正作業を担当する。

### 2. 就職ガイダンスの報告

1 月末に実施した。参加学生が非常に少なく開催時期を含めて要検討。

### 3. WEB サイトの運営について

Facebook ページに一本化する。

### 4. 卒業記念品について

名刺入れがずっと残ってしまっている。継続審議。

## III. 事業計画について

→総会、就職ガイダンス、修了生祝賀会での同窓会案内、新入生（2018 年度）歓迎会での案内、会報作成

## IV. 会計に関する報告

すべて承認。

## V. 意見交換

- ・会則が実態に即していない部分があるので、改正の議論をしていく必要がある。
- ・会費は、無償化・寄付制度になっていけると良いのではないか。
- ・卒業記念品は同窓会内で案を考えてみてはどうか。
- ・同窓会に愛称があると良いかもしれない。
- ・名簿更新と同時に同窓会のメーリングリストも更新したい。京大のメールアドレスを分けてもらえないか。

## 【2017年度同窓会収支】（2016年9月1日～2017年8月31日）

### 2017年度の一般会計収入の予算・決算対比

（単位：円）

項目	摘要	予算	決算	備考(決算時)
同窓会会費収入	終年会費	20,000	0	
	単年会費	2,500	0	
	小計	<b>22,500</b>	<b>0</b>	
記念品販売収入		<b>7,560</b>	<b>0</b>	
寄付		<b>0</b>	<b>0</b>	
雑収入		<b>0</b>	<b>46</b>	受取利子(46円)
前年度繰越金		<b>430,180</b>	<b>430,180</b>	
収入計(A)		<b>460,240</b>	<b>430,226</b>	

### 2017年度の一般会計支出の予算・決算対比

（単位：円）

項目	区分	摘要	予算	決算	備考(決算時)
事務費	通信費		5,000	0	
	印刷費		5,000	0	
	事務用品		6,000	0	
	その他事務費		4,000	2,088	振込手数料
	事務費小計		<b>20,000</b>	<b>2,088</b>	
事業費	同窓会加入のための勧誘活動		4,000	0	
	名簿・会報経費	印刷費、郵送料、物品費等	3,000	0	
	就職説明会経費		0	0	
	総会経費		23,000	3,456	総会経費(京都大学東京オフィス(品川)会議室1 2016年11月19日(土)3,456円)
	同窓会ホームページ作成経費		0	0	
	事業謝金		24,700	11,400	2016年度同窓会名簿情報更新作業(2016年10月2日～3日 時任:5時間×950円、原:7時間×950円)
	卒業記念品経費		0	17,510	gsagesカレンダー2017 [60部 注文日2017年3月17日]
	事業費小計		<b>54,700</b>	<b>32,366</b>	
未払金支払	未払金支払	<b>0</b>	<b>8,856</b>	京都大学東京オフィス(品川)会議室1借上代:2015年11月7日(土)4,428円×2時間	
予備費		<b>20,000</b>	<b>0</b>		
次年度繰越金		<b>365,540</b>			
支出計(B)		<b>460,240</b>	<b>43,310</b>		

### 2017年度の一般会計収支

（単位：円）

収入の部	430,226 (A)
支出の部	43,310 (B)
次年度繰越金	386,916 (C)=(A)-(B)

---

### 3. 同窓会からのお知らせ

---

#### 1) 連絡先について

同窓会へのお問い合わせ・質問・ご意見等は以下のアドレスまでお願いいたします。

→ [ges.alumni.bureau@gmail.com](mailto:ges.alumni.bureau@gmail.com)

#### 2) 会費の支払い方法について

##### ①年単位の支払い制度

年単位でお支払いいただく会費は、以下のように年度によってお支払い頂く額が異なります。

	2009 年度まで	2010 年度以降
正会員 (一般)	300 円/年	500 円/年
正会員 (在学)	200 円/年	
準会員	200 円/年	無料
特別会員	300 円/年	無料

ご自身の支払い状況が明確でないかたは、恐れ入りますが、上記、連絡先までお問い合わせください。

また 2012 年度 (2011 年 9 月～) より、第 8 回総会での承認を経て、終身会費も導入されました。年単位の会費を支払っていただいている会員の皆様も、お支払いいただいた金額が終身会費額に達しましたら、自動的に終身会員となりますので、ご了承ください

(「②終身会費支払い制度」参照)。

##### ②終身会費支払い制度

2011 年 9 月 19 日に実施されました第 8 回総会において、同窓会役員会より終身会費制度の導入が提案され、総会に参加されておられていた会員、事前投票を送ってくださった会員の賛同を得て承認されました。

この終身会費導入の目的は、会員の会費支払いおよび同窓会事務局の会費会計処理の負担を軽減することにあります。

これにより、終身会費をお支払いいただいた会員には終身会員となっただき、それ以降の会費支払いはお求めいたしません（終身会費額が変更された場合も、変更前に終身会費をお支払いいただいていた会員には、変更差額等要求いたしません）。

また終身会費でなく年単位の会費をお支払いいただいている会員のかたも、お支払いいただいている総額が終身会費額に達した時点で終身会費をお支払いいただいたものと見なし、終身会員となっただきます。

### ③支払い方法

会費の支払い方法は①ゆうちょ銀行口座への振り込み、②事務局員への手渡しがあります。ゆうちょ銀行口座をご利用頂く場合、下記の口座に振り込みをお願いいたします。

ゆうちょ銀行 振込受取口座

【振込先名】 京都大学大学院地球環境学会同窓会

(キョウトダ イガクダ イガクインキョウカクシヤク ウソウカイ)

【店番号】 448

【預金種目】 普通預金

【口座番号】 2799694

ゆうちょ銀行振り込みによる支払い方法をご利用の際、同窓会連絡先（「1」連絡先について）参照）まで「〇〇年度会費」または「終身会費」を支払ったとご一報いただけますと幸いです。より正確な会計管理のためにご協力をお願いいたします。

### ⑤現在までの会費支払い状況の確認方法

これまでにお支払いいただいた会費の総額、未納の会費等、不明な点がございましたら、上記、同窓会連絡先までご連絡ください（「1）連絡先について」参照）。会員の皆さまの人数に対して、役員会・事務局で担当する人数に限りがあるために回答までに時間がかかることもございますが、ご了承ください。

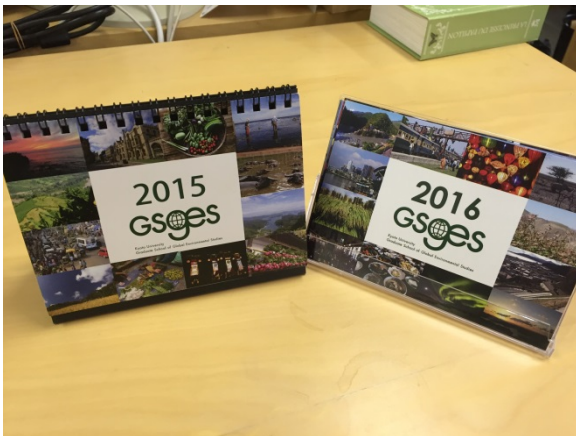
### 3) メーリングリスト利用案内

同窓会では2010年12月7日よりML（メーリングリスト）を設置し、会員の皆さまに情報を発信しております（[ges.alumni.bureau@gmail.com](mailto:ges.alumni.bureau@gmail.com)）。ただしメールの誤送信の予防、セキュリティ、ジャンクメールなどの防止等の観点から、現状ではこのMLは管理者のみがメールを配信できるように設定されています。同窓会メーリングリストを利用して、会員の皆さまに情報の発信をご希望されるかたは、上記、同窓会連絡先までご連絡ください。

#### 4) 卒業記念品

同窓会の卒業記念品を今後どのような形で進めていくかは、継続的に検討していきたいと思えます。近年は卒業生が自主的に「GSGES カレンダー2017」を作成しました。1冊500円で販売しています。謝恩会の受付にて販売したところ、修了生だけではなく、在学生やOBOG、先生方、事務の方々からもご好評でした。

GSGES カレンダーは、2014年度の修了生有志によって2015年度版が製作されて以降、3年間にわたり製作されてきました。カレンダーには、修了生たちがインターン研修や現地調査で撮影した、国内外様々な土地の写真を使用しています。残念ながら2018年度以降製作の予定はありませんが、2017年度版のカレンダーは購入可能です。購入を希望される方は同窓会連絡先までご連絡ください。



#### 5) 学舎同窓会ホームページと Facebook グループページのご案内

就職ガイダンスの情報等を告知する場や、卒業生の活動を伝える情報のプラットフォームとして、現在学舎同窓会はホームページを運営しています。ホームページでは、過去の会報等を公開しております。

また、Facebook ページは、誰でも書き込めるように設定しておりますので、会員の皆様の交流や情報交換の場としてご活用頂ければ幸いです。

①HP アドレス → <http://gsgesalumniwebsite.blog14.fc2.com/>

②Facebook → Facebook にログイン後、「地球環境学舎同窓会」で検索！

## 6) 地球環境学堂・学舎・三才学林の Facebook ページ

現在、地球環境学堂・学舎・三才学林では、Facebook ページを開設し、教員のみなさんや現役学生たちの活動の様子を活発に発信しています。ぜひご覧ください。

→Facebook で「Kugsges\_京都大学大学院三才学林・地球環境学堂・学舎」で検索！

直接リンク：[https://www.facebook.com/Kugsges\\_京都大学大学院三才学林地球環境学堂学舎-1271788376222251/](https://www.facebook.com/Kugsges_京都大学大学院三才学林地球環境学堂学舎-1271788376222251/)

## 7) 2018 年度 総会・懇親会のご案内

2018 年度の同窓会総会・懇親会は 2018 年 12 月 23 日（日）を予定しております。今年度は京都で開催いたします。会場は追ってメーリングリストにてご案内いたしますが、会員の皆さまの奮ってのご参加をお待ちしております。

## 8) 同窓会役員（2018 年度）

<会長>	山崎 衛	環境マネジメント専攻修士課程2011年修了 【在学時所属】環境調和型産業論分野 【現所属】パシフィックコンサルタンツ株式会社
<副会長>	枚本 友里	環境マネジメント専攻修士課程2014年修了 【在学時所属】環境教育論分野 【現所属】国立環境研究所 社会環境システム研究センター 高度技能専門員
<幹事>	原田 英典	環境マネジメント専攻修士課程2004年修了，同博士課程2007年修了 【在学時所属】環境調和型産業論分野 【現所属】地球環境学堂（助教）
	岡本 侑樹	環境マネジメント専攻修士課程2008年修了，同博士課程2011年単位取得退学2012年博士学位授与 【在学時所属】陸域生態系管理論分野 【現所属】地球環境学堂（特定助教）
	内山 智晴	環境マネジメント専攻修士課程2012年修了 【在学時所属】地球環境政策論分野 【現所属】Yper（イーパー）株式会社
	飯田 義彦	環境マネジメント専攻修士課程2009年修了，地球環境学専攻博士課程2015年修了 【在学時所属】景観生態保全論分野

		【現所属】金沢大学環日本海域環境研究センター（連携研究員）
	長谷川 知子	環境マネジメント専攻修士課程2008年修了 同博士課程2011年修了 【現所属】国立環境研究所（研究員）
	吉積 巳貴	地球環境学専攻博士課程2005年修了 【在学時所属】地球益経済論分野 【現所属】立命館大学食マネジメント学部（准教授）
	佐藤 天時	環境マネジメント専攻修士課程2012年修了 【在学時所属】環境コミュニケーション論分野 【現所属】野村不動産株式会社
<監事>	田中 俊徳	環境マネジメント専攻修士課程2008年修了，地球環境学専攻博士課程2011年修了 【在学時所属】地球環境政策論分野 【現所属】東京大学大学院新領域創成科学研究科（准教授）
	籠橋 一輝	環境マネジメント専攻修士課程2006年修了，地球環境学専攻博士課程2012年修了 【現所属】南山大学社会倫理研究所（准教授）
<事務局長>	山崎 衛 （兼務）	環境マネジメント専攻修士課程2011年修了 【在学時所属】環境調和型産業論分野 【現所属】パシフィックコンサルタンツ株式会社
	時任 美乃理 （補佐）	環境マネジメント専攻修士課程2015年修了，同博士過程2018年修了 【現所属】京都大学学際融合教育推進センター森里海連環学教育研究ユニット（特定研究員）



京都大学大学院地球環境学会同窓会会報 第15号 (平成30年度会報)

平成30年10月29日発行

発行者：山崎 衛 (平成30年度 地球環境学会同窓会会長)

発行所：京都大学大学院地球環境学会同窓会

責任者：杵本友里・吉積巳貴 (平成30年度 会報担当役員)



地球環境学会同窓会 平成30年度：平成29年9月～平成30年8月